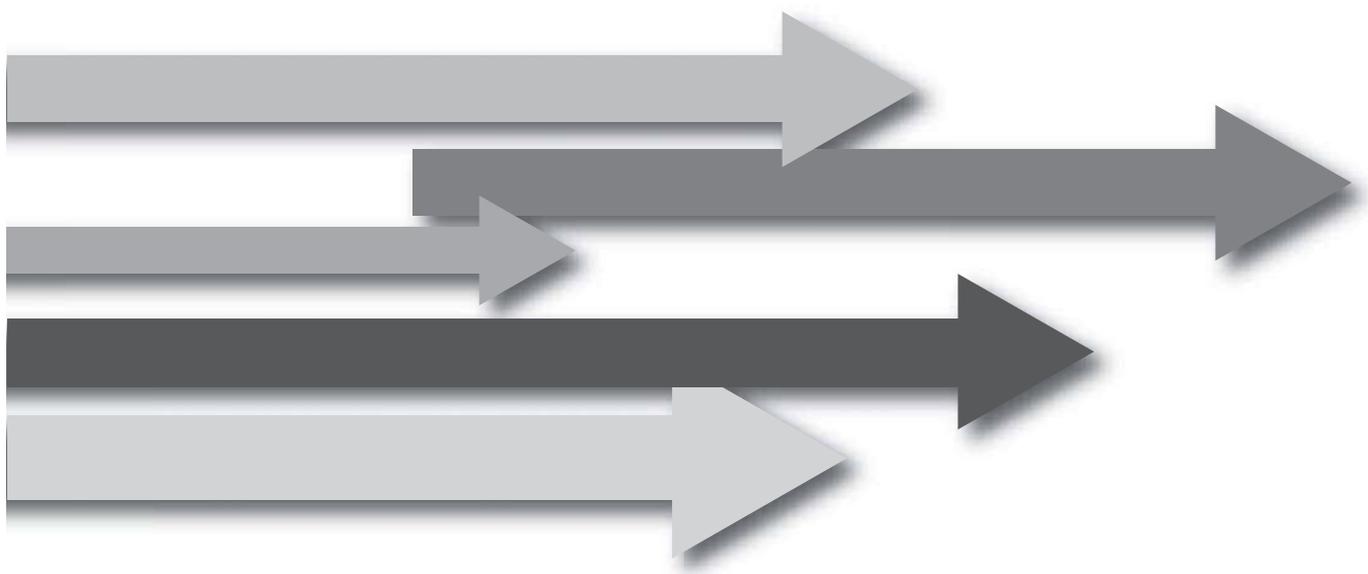


静岡県立中央図書館 中期計画 2018 - 2021

より身近な図書館へ



1 当館の現状と課題（※p8 参考データ参照）

（1）立地、施設・設備

静岡県立中央図書館は文教地区に立地し、県立美術館及び県立大学と文化ゾーンを形成しています。

周囲は有度山などの豊かな自然に恵まれ、落ち着いた環境で調べものに集中できるため、図書館のコンセプトと立地条件が整合した適切な場所にあると言えます。

その反面、周囲に坂道が多く、駅からの徒歩区間の長さやバスの本数の少なさ、点在する駐車場など、アクセス条件は決して良好とは言えない状態にあります。

施設・設備は老朽化と狭隘化が進行しています。建物が古いためユニバーサルデザインの配慮が十分ではありません。また狭隘化により蔵書が施設の容量を超過しており、深刻な事態を招いています。

（2）資料

専門性の高い資料を中心に収集しており、「県立図書館らしい蔵書構成」が特色となっています。これは、県内の市町立図書館が充実していることで、当館が県立図書館としての役割に専念でき、役割分担が明確になっていることを象徴するものです。

当館の特色ある蔵書構成は来館者にも概ね理解されており、調査研究や学習のために来館される方が多くを占めます。

また、貴重書等の特殊コレクションや県史編纂資料の保管と活用、地域資料等の収集等にも力を注いでおり、資料のデジタル化により多様な形での提供が実現しています。

（3）組織、職員

いわゆる正規職員が大半を占めており、臨時・非常勤職員の割合は低くなっています。正規職員は、専門職員としての採用者のほかに、教員、教育行政、一般行政など多様なバックボーンを持つ職員により構成されています。

このことは、当館が重点を置くレファレンス（調査支援）等の図書館サービスの実施に大きく貢献しています。一方で、レベルを維持向上させていくための職員の資質向上が課題となっています。

(4) 業務（サービス）

広い県域で唯一の県立図書館であることから、市町立図書館への支援を重視して業務展開を行っています。「協力車」で市町立図書館を定期的に訪問し、運営相談や聞き取り調査などを実施して、県内図書館全体のサービスの底上げを図っています。

また、協力貸出や市町立図書館等受取サービスを展開して、県域全体で当館資料の活用を促進しています。レファレンスでも、来館、電話、ウェブ等多様な手段で受け付けており、県民の調査研究を支援しています。

(5) 利用状況

遠方から定期的に来館される利用者が一定数ありますが、当館が所在する静岡市からの利用者が最も大きな割合を占めています。年齢層は中高年と大学生が多く、近年の傾向としては高校生以下の利用も増加しています。用途は調査研究のための資料閲覧と、学習環境としての利用が主となっています。

一方で無関心層も多く、当館の存在自体を知らないという県民も多いようです。初めて来館して蔵書構成に戸惑う方もあり、当館の存在と役割を広めることは常に課題となっています。

(6) 外部的環境（社会情勢等）

情報通信技術の発達と普及により、情報収集は一層身近な行為となっています。情報化の進展に加えて、高齢化社会の到来、障害を理由とする差別の解消への要請など、図書館を取り巻く環境は常に変化を続けています。

図書館の利用状況は全国でも県内でも減少傾向が目立っています。また、出版業界は危機的な状態にあるといわれており、図書館の役割を巡って様々な議論があります。

当館を巡る状況としては「文化力の拠点」構想による新館構想が検討されており、改めて県立図書館の役割は何か、どのような図書館がふさわしいのかと議論が起きています。

2 基本的な役割

静岡県立中央図書館は、その目指す方向性を明確にして安定的な運営を展開するため、基本方針や現状と課題を踏まえ、また、新たな県立図書館の整備計画・内容を視野に入れつつ、中期計画「より身近な図書館へ」を策定しました。

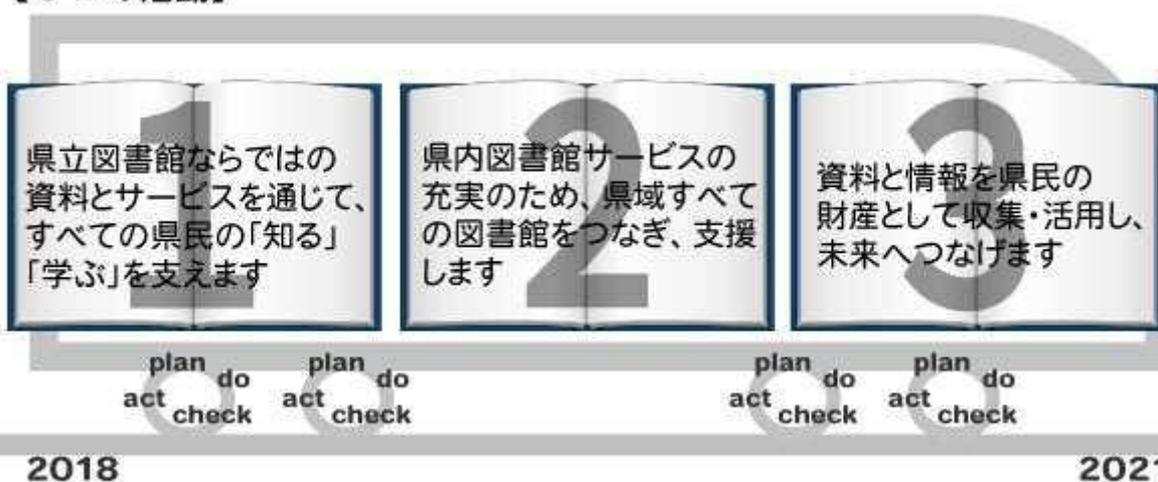
当館の基本的な役割を「県民の力となり、地域の発展に寄与します」と定め、実現のための活動を、以下の「3つの活動」としてまとめました。

【基本的な役割】

県民の力となり、 地域の発展に寄与します



【3つの活動】



3 「県民の力となり地域の発展に寄与する」ための活動 その1

1 県立図書館ならではの資料とサービスを通じて、すべての県民の「知る」「学ぶ」を支えます

1-1 すべてのライフステージや多様性を尊重してサービスを展開します

世代や言語、職業、健康状況など、その属性や置かれている状況により、県民の図書館サービスに対するニーズは多種多様です。静岡県立中央図書館は、資料と職員の力を最大限に発揮し、また他機関¹とも連携して、県民の多様なニーズに対応したサービスを展開します。

1-2 すべての県域にサービスを提供します

県内図書館ネットワークなどの物流網や情報通信技術を活用したり、館外に資料や職員が出向いたりすることで、様々な事情により来館利用の困難な県民に対して、施設にとらわれることなく静岡県立中央図書館の資料や情報、サービスを提供します。

1-3 あらゆる関心層の県民に図書館をアピールします

好奇心を刺激し、読書への関心を呼び起こす様々な取組を館の内外で実施するとともに、何度も利用したくなる魅力ある空間と質の高いサービスを提供することによって、あらゆる関心層の県民に静岡県立中央図書館の存在をアピールします。



市町立図書館等受取サービス



図書館講座をSNSでPR

¹ 県内外の各種の図書館だけでなく、行政や学校、美術館、企業、団体など様々な機関との連携が考えられる。

4 「県民の力となり地域の発展に寄与する」ための活動 その2

2 県内図書館サービスの充実のため、県域すべての図書館をつなぎ、支援します

2-1 市町立図書館とのネットワークをさらに充実させます

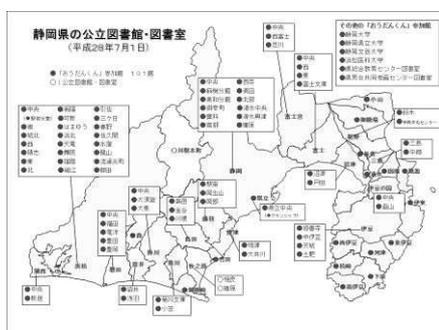
静岡県立中央図書館は、市町立図書館との間に、資料データから物流、サービス・運営支援に渡る図書館ネットワークを構築しています。このネットワークを、市町立図書館のニーズに応じ、他機関との連携・協力なども利用して、さらに充実させます。

2-2 図書館職員のレベルアップを支援します

本や情報の持つ力、さらにはそれを使いこなす方法を県民に伝える最前線にいる県内の図書館職員に対して、その資質や技能の向上を図る研修を実施するとともに、図書館や本を取り巻く環境の変化に協力して対処できるよう、情報やノウハウの共有体制を整備します。

2-3 さまざまな機関とつながり、サービスを広めます

市町立図書館以外の図書館やその他の機関との連携・協力の強化を図るとともに、それらの図書館等と市町立図書館との図書館ネットワークをつなぐハブ²としての役割を果たすことで、県内の図書館サービスを振興し、読書活動を推進します。



相互貸借のネットワーク



公立図書館職員研修の開催

² 中心となるところ。拠点。

5 「県民の力となり地域の発展に寄与する」ための活動 その3

3 資料と情報を県民の財産として収集・活用し、未来へつなげます

3-1 サービスの基盤となる資料・情報を収集します

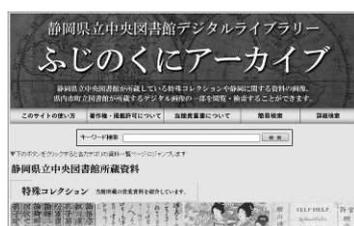
資料・情報は、図書館サービスの根幹を支える重要な要素です。静岡県立中央図書館は、その役割を果たすのに十分な量の資料・情報を収集するため、データベースやポーンデジタル³資料にも配慮しつつ、収集体制を強化・充実させます。

3-2 未来の県民のために資料を保存します

未来の県民の「知る」「学ぶ」を支えるため、収集した資料・情報を、保存環境や修復、媒体変換などに留意しながら、県民の共有財産として後世に引き継ぎます。その上で、県域における資料保存についても、県内の図書館と連携・協力して体制の構築を図ります。

3-3 資料・情報に容易にアクセスできる環境をつくります

資料・情報へのアクセスを容易にし、県民の共有財産として保存する資料・情報の活用を促進するために、資料・情報の組織化やデジタルアーカイブ、オープンデータ⁴などを推進するとともに、パスファインダー⁵などナビゲーションツールの充実に取り組みます。



デジタルライブラリー「ふじのくにアーカイブ」



歴史文化情報センター「授業の種」

³ 作成、発生当初からデジタル形式で記録され、印刷されたメディアを持たず、電子メディアによってのみ作成され流通する情報（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編、図書館情報学用語辞典、第4版、丸善出版、2013、p.231.）

⁴ 「営利目的も含めた二次利用が可能な利用ルールで公開」された、「機械判読に適したデータ形式のデータ」（オープンデータガイド：オープンデータのためのルール・技術の手引き、第2版、オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構、2015、http://www.vled.or.jp/news/docs/OpenDataGuide_v2.pdf、（参照 2017-08-09）.）

なお、図書館では、貴重書画像（大阪府、長野県、大阪市）や統計データ（茨城県）などの事例がある。

⁵ 利用者に対して、特定の主題に関する各種情報資源や探索方法を紹介・提供する初歩的なツール（日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編、図書館情報学用語辞典、第4版、丸善出版、2013、p.199.）

6 本計画を確かなものとするために

(1) 職員の資質向上と育成

静岡県立中央図書館が「3つの活動」を通じて役割を果たすためには、職員が図書館職員としての専門性に磨きをかけて、利用者のために活かしていく必要があります。日常業務における学びあいや館内外の研修などを通じて職員がスキルアップを図れるよう環境を整え、中長期的な視野に立ち職員の資質向上と育成に努めます。

(2) 新館の検討

現在、静岡県教育委員会では新しい図書館の検討を行っています。県立図書館の果たすべき役割を踏まえ、さらに時代やニーズに合わせた新たな発想や可能性を取り入れ、機能や施設のあり方について検討を進めます。

7 本計画の実践について

静岡県立中央図書館は、本計画を以下の行程により実践していきます。PDCAサイクルを繰り返して継続的に改善することで、現実に則した適切な業務展開を図ります。

なお、静岡県立中央図書館協議会の会議録・会議資料は、情報公開の対象となり、静岡県公式ホームページ「静岡県の情報公開」に掲載いたします。

平成 30 年度	第1四半期	① 本計画に基づく当該年度の方針・重点取組を決定（館） ② ①の具体的な業務展開と達成目標を決定（各課） ③ 静岡県立中央図書館協議会に①②を報告
	全期間	業務展開
	第4四半期	① 年度の振り返り・自己評価（館・各課） ② 次年度の方向性等について検討（館・各課） ③ 静岡県立中央図書館協議会に①②を報告・諮問

<以下、平成33年度末まで繰り返し>

【参考】平成 28 年度 静岡県立中央図書館及び県内公立図書館に関する数値指標

項目	実績 ⁶	単位	備考
【本館・えほんのひろば】			
開館日数	304	日	えほんのひろば 308 日
入館者数	217,539	人	
新規登録者	2,614	人	
貸出人数	29,245	人	
個人貸出数	154,243	点	
うち遠隔地貸出数	4,909	点	
協力貸出数	7,527	点	
レファレンス数	8,195	件	
うち静岡県関係	1,927	件	
うち図書館からのレファレンス	68	件	
図書資料数	820,541	点	
うち地域資料数	136,966	点	
視聴覚資料数	14,473	点	電子・マイクロ含む
逐次刊行物タイトル数	9,687	点	
オンラインDB利用数	2,823	回	ログイン数
公立図書館職員研修受講者数	715	人	
ウェブサイトアクセス数	8,179	千件	
来館者アンケート満足度	90.6	%	項目平均
【歴史文化情報センター】			
入室者数	394	人	
資料利用件数	284	件	
資料掲載等許可件数	57	件	
レファレンス件数	286	件	
【県内公立図書館】			
登録者数	1,625	千人	⁷
蔵書冊数	14,184	千冊	⁸

⁶ 静岡県立中央図書館に関する実績は平成 28 年度、県内公立図書館に関する実績は平成 27 年度の値

⁷ 日本図書館協会刊『日本の図書館 統計と名簿 2016』 p.23 及び p.210 から算出

⁸ 日本図書館協会刊『日本の図書館 統計と名簿 2016』 p.21

静岡県立中央図書館中期計画 2018-2021

より身近な図書館へ